

Recruiting Information

KYOTOBIKEN

採用案内

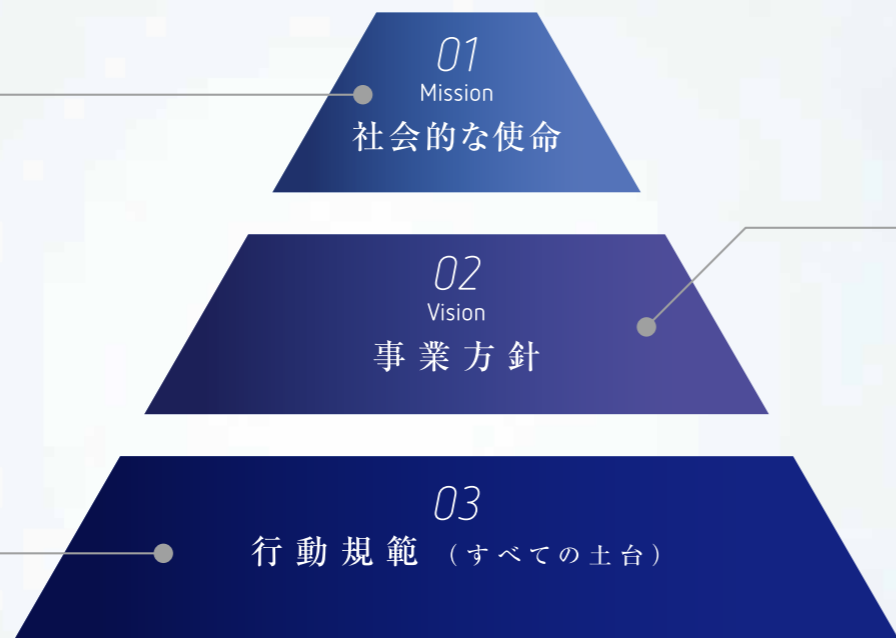
動物を守り、
人を支える



[企業理念]

01
京都から
世界の安心をつくる

動物用ワクチンを通して、安心して暮らせる
平和な社会をつくることを誓う。
そのことを、日本を含む世界の人々から
信託されていることを決して
忘れてはならない。



02
動物を守り、人を支える

動物を病から守りたい。私たちは、そのように願い
行動する人々に徹底的に寄り添うことを誓う。
人と動物の苦しみを減らし、喜びを増やすために、
全員一体となって一つ一つの命を守り、一人一人を支える。
これは、プロダクトアニマルとコンパニオンアニマルの
2つの分野において、大切にすべき共通のビジョンである。

03
京都微研の 3C-Commitments

ありとあらゆる行動と決定において、部門や立場に関わりなく全員が従う判断指針。
MissionとVisionを達成するための土台として、以下の徹底を誓う。

Compliance

法令を遵守し、認められた
基準に従い行動する。
業界および社会の模範となる。

Concentration

動物用ワクチンを軸に、検査、研究開発、
製造、供給を究める。常に高い意識を
保ち、動物医療を進化させる。

Collaboration

部門や立場に関わりなく協働する。
互いの知恵と技術を結集し、
一体化させる。

「動物を守り、人を支える」を目指して

京都微研は動物用ワクチン専門メーカーとして1948年に創業し、
研究開発から製造販売、アフターフォローまでを一貫して行うメーカーとして、
動物を守り人を支える方針のもとにワクチン及び診断薬の
製造販売に取り組んできております。今後の環境変化にも迅速に対応し、
予防衛生対策の一翼を担うメーカーとして必要とされ喜ばれる新製品の創出
そして安定供給の責務を果たしてまいります。

代表取締役社長

大西 徹



京都微研における 今後のキャリアの 歩み方

「この会社での将来像が描けない」という社員の不安の声に対し、「管理職コース」と「エキスパート職コース」それぞれへの道筋を社員に示し、必要な要件を体系的に整理したキャリアロードマップを作成。社員が京都微研での将来像を描き、成長意欲の向上に繋げる。

管理職コース

マネジメントを目指す道
(他部署へのローテーション等で必要な経験を積む)

STEP3
GL<課長補佐>

STEP2
TL<主任>

STEP4
GM<課長>

STEP5
DM<部長>

STEP5
EXP-2
<〇〇部エキスパート>

STEP4
EXP-1
<〇〇部エキスパート>

STEP2
PF-2

STEP1
PF-1

STEP1
TS

START

企画職

主に非定型業務を担い、
マネジメント、
エキスパートを目指す。

企画職

プロ職

予め定められた定型業務を
正確にこなし、現場を支える。

プロ職

エキスパート職コース

管理職ではなく、特定領域において
会社が認定する専門家を目指す道

会社の審査の上、途中で「道」を変えることも可能です。

将来希望するキャリアについて、
人事評価面談の中で上司とも共有



将来のキャリアについても相談
(目標設定面談、振り返り面談等)

昇格にあたっては、JD*を活用し「上位等級に
ふさわしい行動を取れているか」で候補者を選定

*JD: ジョブ・ディスクリプション



上位等級のJDで
求められる要件を
備えていれば、
昇格候補者とする。

管理職者等への昇格の場合は、昇格候補者に対して
面談等を実施し、適切と認められた者を昇格させる。

研修制度

新入社員研修

入社直後に、3日間の外部研修を受講していただけます。内容は、「組織人としての心得・ビジネスマナーの基本・仕事の心得・ビジネス文書のポイント・良好なコミュニケーションなど」です。

管理職者研修

管理職に昇格された方には、外部での管理職者研修(課長・部長)を受講していただけます。また、社内においても毎年、全管理職者を対象に外部講師を招聘した研修会も開催しております。

教育制度

部門別専門教育研修

各部門において専門的知識や、その他業務に直接関わる技能などを習得するために部門別に専門研修を行うものです。その一環として、国内外での学術集会への参加もできます。

自己啓発助成制度

自己啓発助成制度は、社員の積極的な自己啓発を奨励することにより、社員の能力向上を図ろうとするものです。一例として、国内外での語学研修を受けられる制度があります。

研究開発部

#01



「社会に役立つ動物用ワクチン開発」を目指して

牛・豚・鶏などの畜産動物に使用される医薬品については、それらを食料とする人への影響も考慮する必要があります。また、動物を取り巻く環境や、病原体のウイルス・細菌も時とともに変化していきます。京都微研では、全国の畜産農家から寄せられるニーズに基づき、「社会に役立つ動物用ワクチン」の開発に取り組みます。感染動物からのウイルスや細菌の分離、因果関係の確認、弱毒化や不活化処理などのプロセスを経て、ベンチスケールでワクチンの“素”を造ることから始まります。また、他社との共同研究開発、導入などのアライアンス活動や製造販売承認申請書作成業務などの薬事業務も行います。

製剤部

#03



「安定生産」を目指して

この仕事をして一番やりがいを感じるのは、自分が作ったワクチンが無事に国家検定に合格した時です。ワクチンの製造に用いる細胞、菌、ウイルスは同じ手順で同じ機械、試薬を使用しても、同じように増え、同じように不活化できるわけではありません。そのため、決められた手順通り作業していても社内の試験で不適合となってしまうこともあります。出来る限りそのようなことにならないよう、私

たちは日々検討を重ね、より良い方法を考え、安定生産を目指しています。安定生産を目指す、というと簡単に聞こえるかもしれませんが、ワクチンに関してこれ以上に大事で難しいことはないと考えています。これからも社内試験、国家検定に安定して合格し、ワクチンを欠かすことなく消費者の方々に届けられるように頑張っていきます。

ホップ→ステップ→ジャンプでスケールアップ!

ワクチンを安定供給するためには、元となる微生物の大量培養が必要です。微生物の増殖段階に応じて、フラスコサイズから大型培養装置へと徐々に最適な培養サイズに移行させる工程(=スケールアップ)を自らの手で管理していくことは、難しくもあり面白くも感じています。



業務内容

動物用医薬品に適応されるGMPに適合したクリーンな製造施設の中で、ウイルスや細菌を大型培養機器などを用いて大量培養し、牛、豚、鶏、犬及び魚用のワクチン培養液の製造を行っています。また、必要に応じて大量培養されたウイルスや細菌の培養液を精製、濃縮、不活化などの処理も行います。

製造第1部

#02

製造第1部 培養第2課

[2018年4月入社]



製剤部 製剤第4課

[2019年4月入社]

業務内容

動物種ごとに、製剤第1課から製剤第4課に分かれています。全ての課とも、製造第1部で処理されたワクチンの“素”となるウイルスや細菌の培養液を用いて、ワクチン原液の調整を行います。培養液に適正な抗原性補強剤や安定剤などを混ぜることにより、有効性や安全性を確認してワクチン原液は調整されます。それらのワクチン原液は、GMP省令に基づく「品質管理基

準」に従い、品質管理部で実施される、製造工程中の検査を受けます。その検査に適合したワクチン原液を用いて製造第2部と協力して、最終容器への小分けを行ったものがワクチン(小分製品)となります。その後、品質管理部で小分製品の最終自家検査を受けます。自家検査に合格したワクチンの中には、農林水産省での国家検定を受けるものもあります。



#04

製造第2部

製造第2部 業務課
[2013年4月入社]



効率の良い製造を目指す。

入社してから、主に物流センターで包装作業、本社で分注作業に携わってきました。これらの業務には、色々な製造ラインを使用します。製造に関するライン（機械）についての理解を深め、製造時のロス減少・作業効率の向上を図り、滞りなく作業を遂行することにやりがいを感じています。



業務内容

会社全体に関わる設備管理やワクチン製造の前処理工程にあたる器具器材の洗浄・滅菌から、最終工程の最終容器への小分け作業を行います。物流センターでは、国家検定もしくは自家検査に合格したワクチンや診断薬の包装作業を担当しています。機器の運転・管理により製造条件を最適化する技術力も求められます。

品質管理部

#05

“安心・安全なワクチンを”

生物学的製剤である性質上、ワクチンは一定の品質で製造することが難しい製剤です。動物の命に直結する医薬品を扱っている以上、ミスは許されません。製品や会社の信頼性にも繋がる責任の重い仕事ですが、そこに誇りややりがいを感じています。



業務内容

京都微研の製品は、品質管理部による厳格な種々の検査を受けています。検査はGMP省令に基づく「品質管理基準」に従い、製品だけに限らず、原料、材料、製造工程における中間製品なども対象に実施されています。その検査により、製造過程や最終製品の規格適合性を管理し、安全性や有効性を保証しています。

品質管理部 品質管理第1課
[2018年4月入社]



#06 品質保証部



業務内容

医薬品医療機器等法に基づき、自社の「製造販売責任」を保証する部門です。医薬品医療機器等法に基づく製造販売業三役体制を確立し、動物用医薬品の品質管理業務及び製造販売後安全管理に係る市販後安全性情報の農林水産省への報告などの業務を実施しています。

#07 生産管理室



業務内容

京都微研のモットーである「安定的な製品供給」を継続するために、生産計画の立案や在庫量の調整など、製造全般の工程を管理しています。また、製品の品質を確保するために製造に最適な施設・設備機器などの導入計画・管理を実施しています。

#08 管理部



業務内容

総務・人事・購買・経理・業務物流など、社内外との連携を図り、会社の円滑な運営を支えています。また社員への社内外での教育研修などを通じて、豊かな人材の育成を行い、お客様へより安全・安心な製品を供給する体制づくりに貢献しています。

#09 経営統括室



業務内容

会社を運営するための基礎となる各種の計画や企画の立案・管理・周知、マーケットなどの調査分析、予算編成及び管理、その他総合的な戦略企画、システムの運営、情報セキュリティ管理、IT戦略の立案・策定を行っています。

#10 海外企画室



業務内容

世界では動物用ワクチンが必要とされながらも製品が供給されていない国々が多くあります。世界へアンテナを張り巡らせ、国際販路を開拓の上、現地パートナーとの協力体制を築き、海外でもお客様に喜んでいただける製品の供給を目指しています。

#11 動物医薬学術室



業務内容

自社のワクチンを有効かつ安全に使っていただくために、全国の畜産農家や獣医師あるいは代理店に対する製品情報提供を行うほか、必要に応じて講習会や研究会なども担当します。また、“京都微研”微生物検査所では、抗体価測定などの各種検査も行います。

#12 ハノイラボラトリーズ

業務内容 京都から世界へ

京都微研は、ベトナムのハノイにグローバル拠点として、KYOTOBIKEN Hanoi Laboratories (KBHL) を開設し、世界中のお客様に当社の製品供給を目指しています。KBHLでは、多くの動物にワクチンを届けることを目的とした生産能力の向上を支援するために、まずは日本で販売されている液体ウイルスワクチ

ンに焦点を当て、培養細胞を使用したウイルスワクチン培養液の製造作業が行われています。全ての生産は、GMPに完全に準拠した管理システムを通じて進められ、設備から品質管理まで生産のあらゆる側面を管理し、ベトナムで日本品質の製品の生産を実現することを可能にしています。



京都微研の歴史

日本における動物用ワクチンのパイオニア

耐性菌を生み出す抗生物質で治療するのではなく、体の中に抗体を作り出すことで病気から身を守るワクチン。京都微研は、1948年の創業から一貫して安全で信頼性の高い動物用ワクチンを追求してまいりました。

これからも研究開発を重ね、動物を守り、人を支えるワクチンを中心に、獣医療の発展と食の安定に貢献し続けたいと思います。

創業の起源 ～動物を守り、人を支える～

国土は焦土と化していた戦後の混迷期、日本の公衆衛生を保つために微生物化学研究所は設立されました。当時は、狂犬病・豚コレラ、ニューカッスル病という国民生活を脅かす病気が流行していました。こういった背景の中で、動物用ワクチンの民間の製造会社は、国の防疫資材の供給源として容認され、当時から重要な役割を持っていました。当社も様々な製品を通して疾病から動物を守ることで、都市の公衆衛生を保ち、更には食料危機にあった日本において、食の安定供給に貢献してきました。京都微研の企業理念である「動物を守り、人を支える」という言葉は、ここを起源としています。

牛用ワクチンといえば京都微研

国内No.1シェアを誇る牛用ワクチンは、多くの畜産農家の皆さまから支持をうけ、日本の肉牛・乳牛の公衆衛生に貢献し続けてきました。牛用ワクチンが京都微研の強みとなった大きな理由は、牛と向き合ってきた時間、農家の方々と一緒にいた時間が長かったから。常にじっくりと牛と向き合い、農家の皆さま・ディーラーの皆さまのお話しを何度も何度も聞きながら研究開発をしてきたからこそ、ユニークな製品を生み出し続けられたと思っています。

これからも「牛用ワクチンといえば京都微研」と言っていただけるよう努めてまいります。

京都から世界に

グローバルでのニーズに応える最初の拠点として、ベトナムのハノイに新会社を設立しました。人口増加、畜産レベルの向上など様々な面から成長する市場として期待できる東南アジアでは、日本と同じように豚や鶏の飼育が盛んです。また牛への関心も年々高まっています。新会社のあるベトナムでは日本の約1.5倍の牛、そして約3倍の豚が飼育されています。しかし、ワクチンを応用した予防衛生については、まだ十分に浸透しているとは言えない状況です。東南アジアの国々の多くは親日的であり、なおかつ日本製品の品質への信頼性が高いことから、日本にかける期待は強いと感じています。

ベトナムで「Made in Vietnam+日本品質の京都微研」を受け入れていただくことを第一歩とし、他の東南アジア諸国へと販売を拡大していきたいと考えています。



コンプライアンスへの取り組み

京都微研は、コンプライアンスを最優先に、「動物を守り、人を支える」ために必要な安全で高品質の動物用医薬品を提供しております。このために、医薬品医療機器等法をはじめとする、京都微研に関連する法省令全般の遵守を徹底しております。

- コンプライアンス推進体制の確立
- 内部通報制度の確立、相談窓口の設置
- 医薬品医療機器等法以外の京都微研に関連する法省令遵守状況定期点検
- 製造販売業(GQP・GVP)、製造業(GMP)の体制確立(自己点検、承認申請書記載内容と製造実態の整合性確認の継続実施)
- データ、社外への発信文書の信頼性保証体制の確立

ハラスメント防止への取り組み

職場におけるハラスメントは、社員の個人としての尊厳や人格を不当に傷つける社会的に許されない行為であるとともに、社員が能力を十分に発揮することの妨げにもなります。京都微研はハラスメント防止対策を講じることが経営の最重要課題の一つととらえ、以下の取り組みを行っています。

- ハラスメントがあってはならない旨の方針を明確化し、管理・監督者を含む全従業員に対して周知・啓発を実施
- ハラスメントに関する相談・苦情に応じ、適切に対応するために必要な相談窓口の整備
- 相談窓口による、職場におけるハラスメントへの事後の迅速かつ適切な対応
- ハラスメントの内容と行為者への厳正な対処方針の規定化、および周知を実施
- 職場におけるハラスメントの原因や背景となる要因を解消するため、アンケート調査などによる実態の把握
- 上記の他、外部専門家を招へいし、実態に即したハラスメント防止に関する定期研修の実施

Access



株式会社微生物化学研究所

〒611-0041 京都府宇治市榎島町二十四16番地
[TEL] 0774-22-4518 (代表) [FAX] 0774-24-1407 (代表)

■お車でお越しの方

京滋バイパス 宇治西インターより約2分
料金所を出て国道24号線を北に向かい約300m先の京都
マツダ宇治店付近T字路を右折、約350m先に正門があります。

■電車でお越しの方

徒歩 近鉄京都線「向島駅」より約25分

タクシー 近鉄京都線「向島駅」より2km (約5分)
近鉄京都線「桃山御陵前駅」より4km (約10分)
京阪本線/宇治線「中書島駅」より4.6km (約10分)

採用に関するお問い合わせ

管理部 受付時間 8:45~17:30 (土日祝日・弊社休業日を除く)
人事課 Tel.0774-22-4518 Fax.0774-24-1407

会社概要

商号	株式会社微生物化学研究所
略称	京都微研
英名	Kyoto Biken Laboratories, Inc.
設立	1948年6月
資本金	3,000万円
従業員数	252名 (2023年1月現在)
代表者	代表取締役 大西 徹
主な事業内容	動物用医薬品等の製造・販売 動物用・魚用・植物用ワクチンの 研究・製造・販売・輸出入
所在地	本社 京都府宇治市榎島町二十四16番地 第二研究所 京都府宇治市榎島町十一29番地I 物流センター・第2物流業務センター 京都府宇治市榎島町中川原2番地 宮津支所 京都府宮津市里波見小字ダイラ49 京都微研ハノイラボラトリーズ Plot F6, Thang Long II Industrial Park, Yen My district, Hung Yen province, Vietnam